

<開催報告> 新入生歓迎イベント「Library Week 2021 秋」

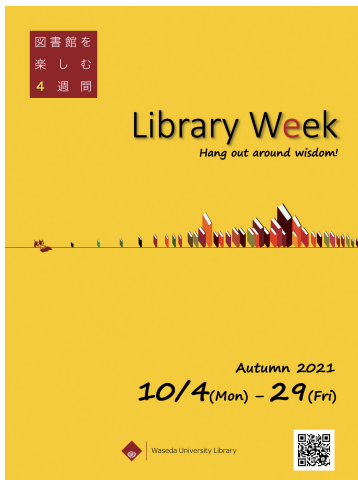
本木 洋子 (利用者支援課)

篠田 一成 (利用者支援課)

図書館では、2013年より毎年4月と10月に新入生歓迎イベント Library Week (以下、LW) を開催している (開催に至った経緯については、『ふみくら 2013. No. 84, p. 2-5』に報告済)。

LW は新入生歓迎イベントと銘打っているが、新入生以外も参加可能なプログラムで、多くの学生に図書館の魅力を知ってもらおうと共に、図書館を更に活用してもらえるよう企画してきた。

2020年度は残念ながらコロナ禍の影響を受けて全て中止



< 2021 秋 ポスター >

せざるを得なかったが、今年度はコロナ感染拡大防止対策を施しながら、「密」を避けるため期間を通常の1週間から4週間に変更し、来館せずとも参加できるオンライン企画も増やして再開した。

ここでは、2021年10月4日(月)～10月29日(金)に開催された秋のLWについて紹介したい。

1. セルフツアー [中央]

館内10か所にあるポイントをめぐり、クイズに答えるスタンプラリー形式のツアー。図書館の概要や利用方法を学ぶことを目的としている。コロナ対策としてスタンプ押印を中止し、シールを集める方式に変更した。

2. Library Concert Archive [ONLINE]

集客に伴う従来の生演奏の代わりに、YouTubeで過去の演奏動画を紹介した。各演奏団体の説明、楽曲に関連する図書の紹介、関連クイズ等も加え、クイズ解答者にはオリジナル画像をプレゼントするなど、過去動画の紹介に留まらない企画とした。

3. トークイベント [ONLINE]

笹原宏之教授(社会科学総合学院)と榎木伸明教授(文学学院)を話者に迎え、Zoomを利用してトークイベントを開催した。詳しくは次頁にて紹介する。

4. 展示・村上春樹 ～村上春樹ライブラリーとは～

[中央・ONLINE]

「村上春樹」の文学世界に触れる展示とともに、2021年秋に開館した国際文学館(村上春樹ライブラリー)を紹介した。図書館員が作成したクイズ20問(日・英)をWaseda Moodleに掲載し、オンラインでも楽しめる企画となった。

問1: 小説『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』の「世界の終り」の中で、主人公(僕)が図書館で読むのは何?

①古い夢、②深い海、③甘い嵐、④伝記 答え: ①

5. 展示「早稲田新書を知っていますか!!!」[中央]

早稲田大学出版部との初コラボレーション。早稲田の知を発信することを目的とした早稲田初となる一般読者向けの新書シリーズ『早稲田新書』を紹介。「やっと君に会えたー」と題して編集長のインタビューも掲示した。



< 展示風景 >

6. 展示「どちらがお好み?～読む?観る?」[中央]

「映像化・実写化された小説」という切口中、秋におすすめの図書と映画を2階コモンズ2および4階AVルームの2か所で紹介した。AVルーム利用案内も掲示し、AVルーム認知度アップも目指した。

7. セルフツアー [戸山]

図書館の入口に無人受付を設置。各階説明パネルを巡り、スマートフォンからクイズに答えるという限りなく非接触型のツアーとした。



<セルフツアー無人受付>

8. TOYAMA COLLECTION, Autumn 2021! [戸山]

フロアごとに「戸山図書館の大型本」「国際文学館」「世界遺産」「SDGs」というテーマを決めて、ポスターと関連資料を展示した。一部展示には利用者のコメントをポスターに貼付する参加型とした。

トーク・イベント紹介 Vol. 1

「図書館で採掘した『謎の文字』たち」
 笹原 宏之 教授 (社会科学総合学院院)
 日時：10月15日 (金) 15:00～16:00

ご自身の造語である『幽霊文字』をはじめ、個々の具体的な漢字を探す日々についてお話を伺いました。大学院生時代は、図書館に住み着いたように通い、恩師からはオペラ座の怪人ならぬ「図書館の怪人」と呼ばれ、先輩からは図書館を「鼠のように走る」姿を目撃されていた、というエピソードもあったそうです。

辞典にない文字を追いかけています。

「古のよこに行」(ガケ) という字を当時戸山キャンパスの学生読書室で見つけ、ノートと情報カードにメモしておいたことがあります。何年か経ち、発見したときの記憶はかすかなものになっていました。しかし日本製漢字を研究していくと決めたころ、この字が調査の対象として必要な字となり、ふたたび浮かび上がってきてしまいました。

書名も分野も思い出せぬまま、学生読書室へ入り書架をさまよいました。必死に頭の中で思い返そうとしますが、検索しようにもキーワードも出てきません。出直そうかと出口に向かい始めたのを覚えています。まだ帰れないという気持ちも消えず、でたらめに歩いていました。もてあました時間のなかでたまたま目に入ったふ厚い歴史の本を開くと、そこに偶然この字があったのです。適当に数ページめくっただけでした。もしかしたら、配架位置や背表紙の色、電気の当たっている加減や、手を伸ばした角度などを身体が覚えていたのかもしれませんが。数年前に同じ場所に立ち、本を開いている自分の身体が重なって感じられました。

その本に書かれていた情報をもとに、引用されていた和本をたどると江戸の地の寺にあった「圻」(がけ)の崩し字だったことがわかりました。埼玉の八潮の方言漢字が、早くに伝わっていたことを知ることができたのです。

「ジャパンナレッジ」(非常勤先の聖心女子大の学生が使いこなしているようで、「JK」と呼んでいました)のようなデータベースは、今や収録資料の全文検索までできて、奇跡といえるほど便利ですが、何回も図書館に通った自分の身体が、頭に思い浮かぶ情報よりも正確に「検索」してくれた体験でした。

図書館に実際に通い、先人が触れてきた和書の写本や漢籍の版本などをまた自分が触れることで、過去の人たちと心の中で対話することができます。調べたことを活字化して、図書館に残してもらっておきさえすれば、たとえ現代の人たちに喜んでもらえなくとも、後の世代の人が、自分が感じた以上の価値を見出してくれるかもしれません。

実際に先人からバトンを渡された経験があります。2011年3月11日に大地震と大津波によって甚大な被害を受けた宮城県の閑上(ゆりあげ)を歩いたことがありました。その災禍の数年前のことです。「閑」という宮城にし

かない方言漢字の使用状況を調べるためでした。途中で取った昼食は、魚介の幸が盛りつけられた「閑上御膳」という一品でした。この字は、仙台を含めた地元一帯で子どもの名前にまで使われるほど愛着を持たれており、藩主(伊達政宗と言う人も)が門の中に海水が見えた景色から作った、といった伝承が江戸期から複数の文献に残されています。

のどかな話として広まっているようですが、今から1000年ほど前の中国の辞典『龍龕手鏡』にも現れています。音読み(俗音あるいは俗字の音)が「滂(さんずい+勞)」(ロウ)だと記されているだけでした。「滂」という漢字は、大波という意味を持っています。この辞典では、しばしば音読みを注記する形式で字義をも表しています。「閑」は門に水が押し寄せることを表そうとして作られた会意文字だった、という可能性が感じられました。早い時期に日本に伝わり、鎌倉時代の観智院本『類聚名義抄』に引き継がれて掲載され、「滂」の俗字として位置づけられています。さらに他の辞典に転記がなされ、実際に天災や揺れの意で使用されていきました(なお、「閑」は別の意味でもしばしば文献上に現れたのですが、個別に作られた会意文字の字体が一致したにすぎません)。

この「閑」の字には、西暦869年に貞観大地震で被災された人々やそれを語り継いだ先人のメッセージが込められていたのではないかと気になって調べ続けています。



[写真] 2003. 9. 1 閑上中学校にて (笹原先生撮影)。現在、同校は小学校と合併し再建。

Waseda University Library

Library Week

ONLINE Talk
Library Week

図書館で採掘した「謎の文字」たち

笹原 宏之
(ささはら ひろゆき)
 早稲田大学
 社会科学総合学院院
 教授

国字研究の第一人者。文化庁文化審議会国語分科会委員、常用漢字の選定・改定作業にも携わる。

「図書館に行き、資料を開き、文字に触れていると、当初の調べものの範囲を超えて、不思議な文字に出会うことがあります。まるで、私たちがその答えを見つけ、さらに新たな問い掛けを作り出すことを待っているかのようです。明治時代以前の貴重書、デジタルアーカイブ、辞典、新刊本から、契約データベースにいたるまで、図書館で掘り出すことができたくつかの文字との邂逅についてお話しします」

10月15日(金) 15:00-16:00

- ◎対象 : 早稲田大学 学部生、大学院学生、教職
- ◎申込 : 事前申込が必要です。トークイベントZoomのURLをお知らせします。
[特設ページ (右QRコード) <https://www.waseda.ac.jp/~lib/week/>]

新編
国語辞典

トーク・イベント紹介 Vol. 2

「世界文学を図書館で読む」
 榎木 伸明 教授 (文学学術院)
 日時：10月22日 (金) 11:00-12:00

2021年10月に出版された日英対訳のアンソロジー『世界文学の名作を「最短」で読む』を編集する際、榎木先生は中央図書館地下の研究書庫で古書を探しながら、翻訳をしていったとのこと。図書館の蔵書をご紹介いただきながら、いくつかの英文とその邦訳の拾い読みをしていただきました。

口語で自由に書かれた詩から読んでみましょう。韻を踏んではいませんが、声に出して読んでみると、リズムがあります。書き手はエミリー・ディキンソンという19世紀中頃のアメリカの女性です。家に引きこもって詩を書いていた人で、20世紀になってから発見された詩人です。

「詩人たちはランプに点火するだけで一」とはじまるこの詩の中で、詩人はランプに点火します。そのランプの光をレンズに通してみると、丸い同心円の光

が四方八方にまき散らされていく。詩がランプにたとえられていますね。詩人がこの世から退場しても、詩はランプのように幾時代も光り続ける。書かれたことばは作者よりも長生きするということ。

自分が死んでもことばを残せるというのは大きな希望です。文学を支えに生きていく人は、みんなこのことを本気で信じていると思います。

ランプの比喩を補足説明するならば、詩は作曲されて歌になるとか、映像とコラボしてテレビや映画になるなどという形で、ランプの光にさまざまな色が加わって行く場合があります。現代は、本来肉声であった詩が、多くのメディアに拡散している時代です。

次に、古い英語の詩を読んでみましょう。シェイクスピアの『ソネット18番』。“day”と“may”や、“temperate”と“date”が一行おきに韻を踏んでいます。こういう詩を暗記しているイギリスの方がいらっしやいます。百人一首を暗記している人がいるのと同じようなものですね。

詩の内容を紹介しましょう。語り手の目の前に若い人がいる。若い人は今こそ美しいけれど、年を取ればし

やしわがでできます。ところが、この詩の語り手は、きみは年をとらないと言いつ張ります。どうしてかという、ぼくがきみのことを詩の中に書いたから、ことばで描かれたきみは永遠になったんだよ、と。この詩はことばでこしらえた記念碑みたいなものです。シェイクスピアは自分のことばに大きな自信を持っているんですね、かつこいいです。

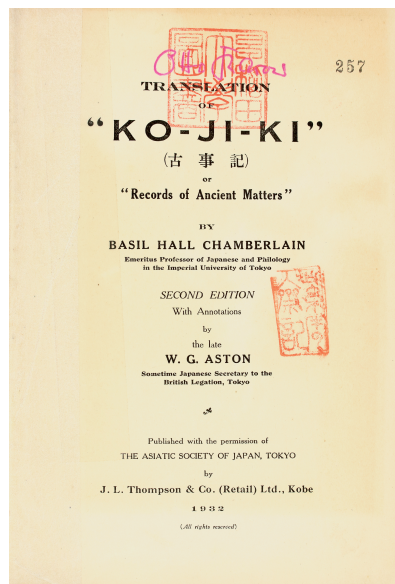
皆さん、英語の文学作品を読むときには、ぜひ朗読してみてください。すべての意味がわからなくても、自分でしゃべって自分で聞くと、ことばが身体を通ります。声に出すことによって、ことばはリアルな身体を獲得するんですね。

早稲田の図書館にはおもしろい本がたくさんありますよ。ダンテの『神曲』は19世紀の英訳を入れました。イタリア語の凝った詩形を読みやすい英語に組み替えたものです。ユアン・メイという18世紀の中国の詩人の詩は、『源氏物語』の英訳で有名なアーサー・ウェイリーという学者による英訳です。漢詩を英訳で読んでみると、ソネットを讀んでいるような気分になります。違う言語、違う時代、違う社会で書かれた詩が、他人の空似のように感じられてくるのが面白いですね。

『古事記』の英訳は、明治時代に東大で教えた、バジル・ホール・チェンバレンの翻訳を使いました。早稲田の図書館にはチェンバレン訳の第二版があります。書庫で手に取れますよ。早稲田ゆかりの文学者にもすごいひとがいます。今度のアンソロジーにはラフカディオ・ハーン (小泉八雲) の怪談「耳なし芳一」とモーパッサンの短編小説の英訳を入れました。大久保で暮らしていたハーンは、短期間でしたが早稲田大学の英文科で教えました。

図書館の書庫を散歩してみたらどうでしょうか。タイトルだけ知っている小説や詩集を見つけたら、読破しようなんて考えずにばらばらページをめくってみる。もし気に入ったら、ちょっと読んでみてください。きれいな花や貝殻を探すように書庫を散歩してみたいなあ……。

[写真] Chamberlain, Basil Hall. *TRANSLATION OF "KO-JI-KI" or "Records of Ancient Matters"*
 2d ed, Kobe, Published with permission of the Asiatic Society of Japan, 1932.



LINE! Event 2021 Autumn

*This event will be held in Japanese.

世界文学を 図書館で読む

ASTORIES




榎木 伸明
 (とちぎのぶあき)
 早稲田大学 文学学術院 教授

アイルランド文学者。2014年に、「アイルランドモノ語り」で、第65回読売文学賞受賞。

「コロナ禍で病んでしまうのは身体だけではないのかもしれない。ウイルスやワクチンについての一面的で間違ったメッセージが飛び交うと、言葉もまた痛み、病気になるのではないのでしょうか。一方で詩は、現実的な言葉の渦にのまれそうになりながらも、世界各地で、したたかに生き抜いてきました。古代ギリシアの叙事詩、古事記に記された歌謡、アイルランドのパブで朗読された現代詩など、多様な言葉を対話と朗読でお届けします」

10月22日(金) 11:00-12:00

職員 特設ページから申請してください。



eda.ib/library/news/2021/09/16/10115/